

基本フレーズ

フレーズ No.

047 骨の状態（むし歯の状態）は外から見てもわからないので、エックス線写真を撮って確認します。

048 歯周病やむし歯の進行具合を調べます。

会話イメージ



全部の歯のエックス線写真を撮りますので、合計14枚撮影しますね。

え？ 全部の歯を撮るの？ 痛いところだけじゃダメなの？



症状のないところでも、骨の状態は外から見てもわからないのでエックス線写真が必要なんです。

症状がないなら、問題ないんじゃないの？



歯周病は症状が出にくいので、エックス線写真で全体を確認することが大切なんですよ。

◎なぜ1枚じゃダメなの？

今まで症状のある部位のみのエックス線写真やパノラマエックス線写真しか撮影経験のない患者さんからすると、「なぜこんなにたくさんのエックス線写真を撮影しないといけないの？」と疑問を持つのは自然のことかもしれません。「今症状のあるところのみではなく、外から見ただけではわからない異常が他にないかを調べるために必要です」のように意義を伝え、患者さんも納得します。

撮影に際しては、**フレーズ 047** や **048** を使い、「エックス線写真でなければわからないものがある」ことをしっかり伝えましょう。

◎全顎エックス線写真を撮影する意義

歯周組織検査の基本は、口腔内写真とプロービング、エックス線写真の3つで構成されます。それゆえ、

- 口腔内写真：現在の外から見た歯や歯列、歯ぐきの状態を記録する
- プロービング：歯周ポケットの深さの計測や炎症の有無を確認する
- エックス線写真：歯を支える骨やむし歯の状態を調べ、記録する

のようにそれぞれの役割を伝えることで、全顎エックス線写真を撮影する意義の理解が進むことがあります。

歯科医院に、参考例として見せることができる資料があるならば、腫脹とプロービング値と骨吸収像を関連づけて見せることで、患者さんもピンとくることでしょう。

◎撮影を拒む患者さんには

説明しても、「どうしても撮影したくない」という患者さんがいます。以前、「放射線治療をしたばかりなので、今はやりたくない」という患者さんがいました。そのような患者さんには、歯科医師と相談し、「情報量が少なくなるため、きちんと治療ができない可能性があります」と伝え、できるところまでの治療をするなどの対応をしましょう。

なおこの患者さんは、「では、いずれ撮影しましょう」ということになりました。

